

児童・生徒の現状・課題

学習への意欲は高く、課題に取り組むができないことがあると諦めてしまったり、次の手だてを取ったりすることができない。どこができていないのか、どうすればよいのかを振り返って考えられない。



学び続ける力を育むための重点目標

○子どもたち自身が、自らの学びを自ら進めるという意識を高め、理解度や進捗を振り返りながら学習できるようにする。そのために、学習の目的地を理解し、自分の常用に合わせて学び方を調整・修正しながら粘り強く課題を解決できる力を養うことを目指す。



具体的な手だて①

単元の挿入で単元計画を可視化し、学習のゴールを生徒と共有する。そのうえで、学習ツール(ICTや紙か等)を生徒自身が目的や状況に合わせて選択できる場면을意図的に設定する。

具体的な手だて②

授業内に必ず振り返りの時間を設け、単元を貫く学習課題を達成する過程での、自分の学びの進歩を客観的にとらえ、必要に応じて修正する場面を設定する。

具体的な手だて③

共に学習する仲間、学習する場所、ツールなど、目的に沿って、自ら選択できる場面をどの教科においても毎時間設定する。



※肯定的回答の割合(%)

児童生徒調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①自分から進んで計画を立てて学習している。	82.5	82.5	
②学習をしてもできないときは、学習の方法を工夫している。	78.5	80.0	

教員調査	昨年度	目標(5月)	結果(1月)
①授業では、学習課題や学習過程等、児童が学び方を選択する場面を設定している。	90.5	90.5	
②学習をしてもできないときは、どうすればよいか、見通しをもたせている。	78.5	80.0	

授業改革を日常化するための工夫

- ・授業の見通しをもたせるための手立てとして、「目標」と「本時の見通し」の掲示物を全教室に配備し、どの教科でも共通して使用する。
- ・振り返りのフォーマットを共有し、どの教科でも同じ手立てで振り返れるようにする
- ・相互授業参観を実施し、教員が互いに見合う機会をつくる。

総括(5月)

アンケート結果から、生徒は基礎的な知識・技能や対人関係能力を習得していると自負する一方で、学習の計画を立てたり、課題を自ら見いだしたり、困難な課題に直面した際に別の手立てを考えたりすることに課題意識を持っていることが明らかになった。そこで本改革では、生徒が受け身の学習から脱却し、自らの学びを「計画・選択・評価」できる主体的な授業づくりを推進する。教員が適切な手立てを授業内に組み込み、生徒が見通しを持って学習に取り組める環境を整えることで、生徒の「学び続ける力」を育てていくことを学校全体で目指す。

総括(1月)